

### 一般演題10-6

## 当院の突発性難聴に対する高気圧酸素治療 (HBO) の現状と課題

伊藤達也

刈谷豊田総合病院 臨床工学科

#### 【はじめに】

突発性難聴は原因不明の疾患とされており、さまざまな治療に対する効果も明確でない未だ治療困難な疾患である。

一般的に当疾患に対する高気圧酸素治療の効果は重症度、難聴型にもよるがHBOの治療開始時期が発症早期であるほど高い治療成績が得られると報告されている。

当院の当疾患に対するHBO導入時期に関しては不明瞭であり、聴力固定後のすでに手遅れの状態で導入する例も少なくないと思われる。

#### 【目的・方法】

今回、当院の当疾患に対するHBO早期導入に向けた課題を見つけるために、導入時期に関する現状調査(以下2011年から2014年度の過去4年間の調査結果)を実施した。

#### 【結果】

当院の突発性難聴でのHBO導入患者数はここ4年間で161名であり、外部機関からの紹介患者として来られる方が96名(60%)、一方、当院で初診される患者(初診患者)は65名(40%)で、紹介患者の割合の方が多く年毎にみてもその割合は増加している。

発症からHBO導入するまでの期間を紹介患者と初診患者で比較すると、初診患者では発症から2週以内の導入が多いが、紹介患者は2~3週と初診患者に比べて導入が一步遅れているように見受けられる。(図1)

また、紹介患者の外部機関から当院受診されるまでの期間は1~3週にばらついている。(図2)そこには外部機関によつての違いがあり、紹介が比較的早いところでは2,3日、遅いところでは2~3週でHBO非保有施設が出来る治療をやりきつてからの最終手段のHBOという意味合いで紹介する外部機関もある。

初診患者のHBO導入に至っては9割近くの患者が2週以内の導入を可能としている。(図3)

#### 【まとめ】

- ・紹介患者と初診患者での導入に至る道筋により、HBO導入時期に差異がある。
- ・紹介患者は初診患者に比べ、HBO導入が一足遅れる傾向にある。
- ・初診患者の9割近くが早期HBO導入をしている。

#### 【課題】

当院の突発性難聴に対する紹介患者の割合は年々

増加しているので今後さらに導入時期が遅延する可能性がある。HBO導入時期が遅れないためにもHBOが可能な施設が近隣施設への啓蒙活動やさらに地域住民へのアナウンスが必要になってくる。

地域連携の強化をしていくために我々CEが介入していく場を見つけるのが今後の課題である。

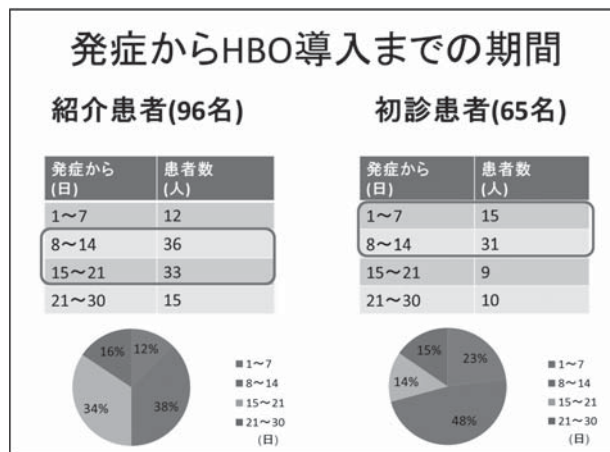


図1

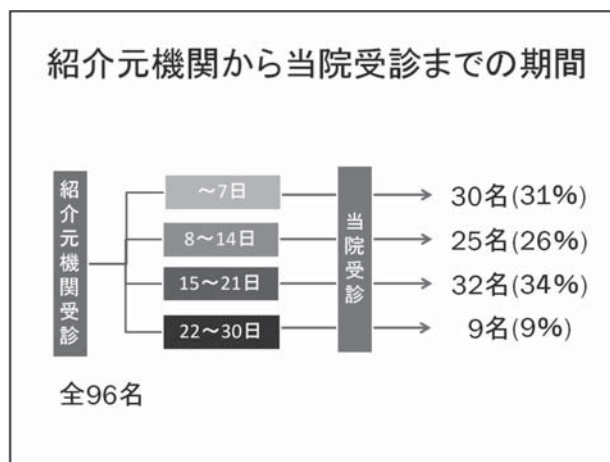


図2

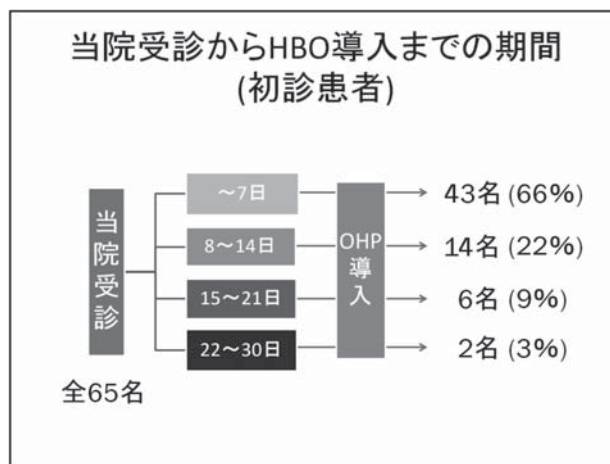


図3